

## <特別講演>

### 地震列島日本の宿命

地震予知連絡会会長 島崎 邦彦

#### キーワード 活動期，地震リスク，連発震災

東日本大震災では救うことのできたはずの多くの命が失われ、防ぐことができたはずの原発事故が起こってしまった。その原因はさまざまな要因があって複雑だが、根底には本当の地震リスクを日本人が知らないことにあると思う。地震活動は、規則的であっても不規則的であっても、満ち引き、或いは活動期と静穏期がある。偶々、地震活動の低い時期に人生の大半を過ごしていれば、当然のことだが、地震リスクは低く見積もられてしまう。無意識下の低いリスク感の前に、突然現れたのが1995年阪神・淡路大震災であり、2011年東日本大震災であった。しかし、リスク意識の低いままで、人々はちぐはぐの対応を続けているように見える。今年1月以降首都圏の人々が直下地震の高い確率に右往左往したのも、その一つである。戦後の復興から経済成長、そして繁栄までの50年間、偶々大震災のない平和な期間にあっていた。常に右肩上がりの社会の夢から未だ抜けきれない人々がいる。そして、巨大津波や大震災、さらには原発事故を空前絶後の一回限りの特別な現象、想定外という例外現象の悪夢であるとして、封じ込めようとしている人もいる。高齢社会で財政が破綻し人口減少へと向かう中でも、我々はこの地震列島に住み続けなければならない。今後は連発震災が発生して、地震のリスクが極めて高くなる恐れがある。この列島の環境と折り合ってどう暮らして行くのか、知恵を絞って地道な対策を着実に実行することが大切である。